

北上市立
鬼の館 だより

2015.10
第43号



平成27年度企画展

「鬼と大蛇と狐と蜘蛛と～岩手の昔話から」開催中
7.25～11.3

現在、企画展「鬼と大蛇と狐と蜘蛛と～岩手の昔話から」を開催中です。本企画展では、北上市を中心に県内で伝承される昔話の中から特徴的な話題を取り上げ、声によって伝えられていた昔話の世界の一部を紹介しています。そのほかにも、狐の張子面を15点、かっぱ陶面や狐に乗ったお稲荷様をかたどった木製の騎狐神像も展示しています。

この機会に、是非、ご観覧いただき、その魅力に触れ、その素晴らしさについて再認識していただければ幸いです。



▲ 騎狐神像（個人蔵）

鬼の館平成27年度上半期をふりかえって

特別展「VIVA MEXICO」

特別展「VIVA MEXICO～利根山光人コレクション」は4月25日から7月5日まで開催しました。

本展では、北上市にゆかりのある画家・故利根山光人氏が深い思いを寄せた地メキシコについて、氏が収集した仮面（当館蔵）とメキシコ関連絵画（利根山光人記念美術館蔵）を通じて紹介しました。氏の目に映ったメキシコはどのような景色だったのか、仮面などの作品から伝わるメキシコの魅力を肌で感じられる展示になりました。



書籍から引用した氏の言葉とともに

大乘神楽大会

第21回大乘神楽大会は6月14日、鬼の館エントランスホールで行いました。今回は、北上市内の6保存会に加え早池峰嶽流綾内神楽保存会（北上市口内）を招き、全14演目を披露しました。第6回大会以来約16年ぶりの早池峰嶽流綾内神楽保存会との競演に、大乘系と早池峰系との違いが見られる公演とあって、市内外から多くの観客が訪れました。また、「五大龍」が初披露されるなど、神楽ファンには堪らない見所満載な大会となりました。



五穀の舞（早池峰嶽流綾内神楽）

こどもの日わくわくイベント

「こどもの日わくわくイベント」は今年も5月5日に開催し、700人を超える多くの参加者で賑わいました。これは、こどもの日を鬼の館で楽しんでもらおうと毎年行っている催しで、「ようかい風船」や「お面に色つけ」、「ストライクダーツ」のほか、北上市少年少女発明クラブの「工作コーナー」など多彩な体験コーナーが目白押し。「鬼に変身」では、鬼剣舞の衣装を身に付けた幼児がカメラの前で得意げにポーズをとるなど、たくさんの親子がこどもの日を満喫しました。



衣装をつけて、鬼剣舞に変身！！

青少年特別公演

今年度から定期芸能公演の回数を2回増やしましたが、内1回は「青少年特別公演」として、伝承活動に取り組む青少年の発表の機会としました。日頃の練習の成果を発表していただき、伝承活動の励みとしてもらうことがねらいです。6月7日、記念すべき第1回目の公演は、飯豊鬼剣舞少年団（飯豊地区）と道地（どうち）ひな子剣舞保存会（藤根地区）の皆さん。それぞれ直前の練習にも熱が入り、当日はたくさんの観客や保護者が見守る中、堂々としたステージを披露しました。



道地ひな子剣舞

逢魔が時ナイトミュージアム

「逢魔が時ナイトミュージアム」は8月5日・6日の二日間、開催しました。“逢魔が時”とは、昼と夜の移り変わる時間、鬼にぼったりと出会うかもしれない時間帯をさします。通常午後5時までの開館時間を午後7時30分まで延長し、まさに逢魔が時に鬼の館で「鬼」と気軽に触れ合っていただくために企画した今年で3年目のイベントです。

二日間を通してミニミニワークショップを行ったほか、野外ステージでは岩崎鬼剣舞、和賀東中学校吹奏楽部、和賀大乘神楽の公演を行い、屋内では

わんこダンスの練習会、いわさき小学校図書ボランティアによる大型紙芝居の読み聞かせ、展示室探検などを行いました。

今回初の試みとなる大型紙芝居の読み聞かせでは、岩崎地区に伝わる民俗芸能「鬼剣舞」と「ひな子剣舞」を題材にした2作品を読み上げていただき、地元の人ならではの視点で描かれた芸能にかける人々の想いがひしひしと伝わる物語に、会場に集まった多くの観客が聞き入っていました。



日頃の練習の成果が窺える素敵な演奏でした



大型紙芝居「岩崎鬼剣舞と生きて～和田房吉物語」

夏休みワークショップ

夏休みワークショップは市内小学生を対象に7月28日・8月1日・11日の三日間行い「鬼剣舞和紙面」「冷え冷え妖怪グラス」「魔よけ鬼うちわ」を作りました。

8月1日に行った「冷え冷え妖怪グラス」作りでは今大人気の「妖怪」をテーマとし、グラスに専用のマスキングペンとジェルを使用しスリガラス状の妖怪を浮かせました。それぞれがデザインしたオリジナルの妖怪が浮かせると、その不思議な変化に子供たちは目を輝かせていました。



うまくスリガラス状に変化するかな・・・

わんぱく講座「妖怪あんどんづくり」

夏期わんぱく講座は7月31日・8月4日の二日間開講、「妖怪あんどんづくり」に挑戦しました。

参加者は、ミキサーで砕いた牛乳パックを材料に紙をすき、竹と針金で作った骨組みにすいた和紙を貼り、色紙やビーズ等で妖怪を表現しました。紙を薄くした効果もあり、本物の“からかさオバケ”みたいな出来上がり子どもたちは大満足！今年はLEDライトを置く台も紙粘土で作成。完成した作品は、“ナイトミュージアム”で展示し、あやしげな“妖怪の灯り”で、来場者を魅了しました。



一人一人納得の仕上がりにご満悦！！

学芸ルームから

昔話と擬態語

企画展「鬼と大蛇と狐と蜘蛛と～岩手の昔話から」より

主任学芸員 後藤 美穂

現在開催中の企画展では、北上市とその周辺に伝承される昔話の中から、異類（人間ではない超自然的存在）、特に鬼・大蛇・狐・蜘蛛について取り上げ、映像を介さずに言葉だけでリアルに綴る昔話の世界をご紹介します。人間と異類との不思議な世界や衝撃的な結末、ほろりとする結末が方言で語られたものです。

動画全盛の現代では忘れがちになってしまう言葉の力ですが、昔話の中にはお話をよりリアルにし光景が浮かぶように様々な仕掛けがあります。大きさを伝える際に「馬の飼葉桶ほどの」や「四畳ほどの」と例を用いたり、光景を端的に表現する擬態語が多用されています。「どんぶらこ どんぶらこ」が『桃太郎』の中で象徴的な表現であるように、擬態語は昔話のキーとなる場面で物語をよりインパクトのあるものにします。ここでは武田礼子編『わがのむかしばなし』からいくつかをご紹介します。

・デダッと（大人が地面に足をつけて大きな足跡が残った様子）

・ネロネロと（正体は蛇であることを見破られてしまった母親が頭から蛇の姿になり、山の沼を目指して戻っていく様子）

・ダワダワと（後藤野に現れる蜃気楼のうち、洪水の年に見えるという滝の水流の様子）

・どんがどんがと（薪をたくさん焚いて、炎が燃え盛る様子）

・ぐれもれ ぐれもれ（人間の子供に化けた蜘蛛の子供が和尚の周りを落ち着きなく動き回る様子）

・コヤコヤ コヤコヤ（大木の穴の中で蛇が話をしている様子）

・ゾヘゾへと（楠の大木を切り倒す様子。簡単に切れたという表現）

・ポレポレ ポレポレと（湧水が水晶のようになって湧き出ている様子）

・ビョウビョウと（激しい吹雪の様子）

・ダギンダギンと（斧で木を切っている様子）

・モレモレと（アブがたくさんいる様子）

・つんぷかんぷ つんぷかんぷ（猿が浮き沈みしながら川に流されていく様子）

聞きなれない表現ですが、光景が目に浮かびやすくなりますし、ただ様子を説明するよりもより魅力的なお話になります。

企画展は11月3日まで開催中です。地域の言葉で語られた素敵な昔話にぜひ触れていただきたいと思います。

館長就任の挨拶

北上市立鬼の館

館長 高橋 博



4月1日付で北上市立鬼の館の館長に着任しました高橋博です。松田訟盟前館長の後を受けまして、館の発展に微力ながらも貢献してまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

前任は消防防災課で、消防団活動を中心に、防災等にも従事しておりました。以前は土木、資産関係

が主で、広報もかじったことがあり、多くの市民の方々と触れ合っていました。今回初めて教育文化部門に携わることとなり、勝手がわからない状態ですが、皆様のご支援ご協力をいただき、努めてまいりたいと思います。

当館は、地域の皆様をはじめ芸能団体など多くの関係者の皆様のご協力をいただき、昨年20周年を迎えました。今年は30年をめざし、新たな一步を踏み出すこととなります。今後とも、皆様に愛される魅力ある館であるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

皆様のご来館を心よりお待ちしております。



岩崎鬼剣舞
高橋 見一さん

を見ていると作って良かったと感じるそうです。同時に作った収納用の木箱にも思いがあり、「最近の子どもたちは片付けが苦手なようだ。練習後に子どもたちが自ら進んで片づけが出来るように」と願いをこめて作ったそうです。「これからも鬼剣舞体験の時に子どもたちと一緒にこの木刀を使って楽しく、時には厳しく練習できるといいな」と話していました。



わんぱく講座「刀剣舞の狂い」練習風景

毎年冬のわんぱく講座（鬼剣舞体験）で使用している木刀があります。以前から踊りの指導をされていた岩崎鬼剣舞保存会の高橋見一さん（通称：げとけんさん）が職場にある端材を使ってコツコツと作った立派な木刀です。

以前は竹の棒を使って練習していましたが、「竹の太さや長さがバラバラで、ささくれている物もあって危ない」と感じた高橋さんが、子どもたちが安全で楽しく鬼剣舞が踊れるようにと作って下さいました。今も、自分の作った木刀で練習に励んでいる子どもたち

平成27年度下半期事業のお知らせ

鬼学講座「民俗芸能の今、そして未来」

- ①10月18日 子どもと芸能～二子地区の事例
- ②10月31日 鬼剣舞と国際交流
- ③11月7日 県指定文化財ひな子剣舞の保存育成
- ④11月21日 神楽を語る～信仰と芸能・保存継承
- ⑤12月5日 民俗芸能のこれから

市民開放展

企画展示室で自慢の作品を披露してみませんか。
彫刻、写真、手芸、絵画など作品の種類は問いません。期間や展示点数もご相談に応じます。日頃の活動の成果を発表する場として、ぜひご活用ください。
会期：平成27年11月21日～平成28年3月13日
興味のある方は、10月30日までにお問合わせください。

冬休みワークショップ

12月23日・26日・1月6日
内容未定

鬼っこわんぱく講座鬼剣舞体験

1月10日・17日・24日・30日・31日
鬼剣舞和紙面作り・「刀剣舞の狂い」の練習・発表
※「冬休みワークショップ」と「鬼剣舞体験」は日程が変わる場合があります。

福豆鬼節分会

平成28年1月31日(予定)
「福はうち、鬼もうち」の掛け声で豆まきや餅まきを行い、一年の福を呼び込みます。各種ゲームや芸能公演、木ボラの習俗儀礼など内容盛りだくさんの冬まつりイベントです。

鬼の里だより

●企画展・特別展

<特別展> 「VIVA MEXICO」
4月25日～7月5日 4,649人

●鬼の館芸能公演

4月26日	北藤根鬼剣舞	観客	143人
5月4日	黒沢尻北鬼剣舞		
	鬼柳鬼剣舞め組	観客	171人
5月24日	鬼柳鬼剣舞	観客	224人
6月7日	青少年育成公演	観客	100人
6月28日	黒岩鬼剣舞	観客	92人
7月26日	谷地鬼剣舞	観客	92人
8月8日	岩崎鬼剣舞 ※	観客	240人
8月14日	岩崎鬼剣舞	観客	196人
8月23日	相去鬼剣舞	観客	113人

(※第54回北上みちのく芸能まつり会場として)

●大乘神楽大会

6月14日 観客 246人

●鬼ツズ・プレイミュージアム 4月1日～9月20日

和紙面づくり 参加者 329人
出前講座4件 参加者 237人
<夏休みワークショップ>
7月28日鬼剣舞和紙面づくり 参加者 13人
8月1日冷え冷え妖怪グラスづくり 参加者 17人
8月11日魔よけ鬼うちわづくり 参加者 29人

●鬼っこわんぱく講座

5月5日こどもの日わくわくイベント 参加者 702人
7月31日・8月4日妖怪あんどんづくり参加者 19人

●逢魔が時ナイトミュージアム

8月5日・6日 観客 316人

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。

休館日

- ・12月～3月の月曜日
- ・12月～3月の国民の祝日の翌日(土・日・月曜日の場合は火曜日)
- ・館内整理日(11月27日～11月30日)
- ・年末年始(12月28日～1月4日)

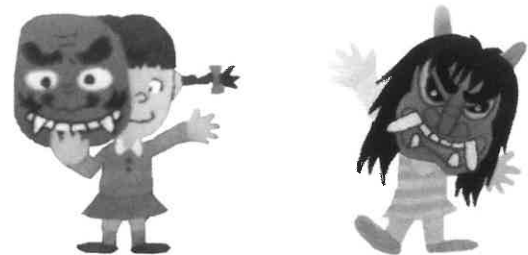
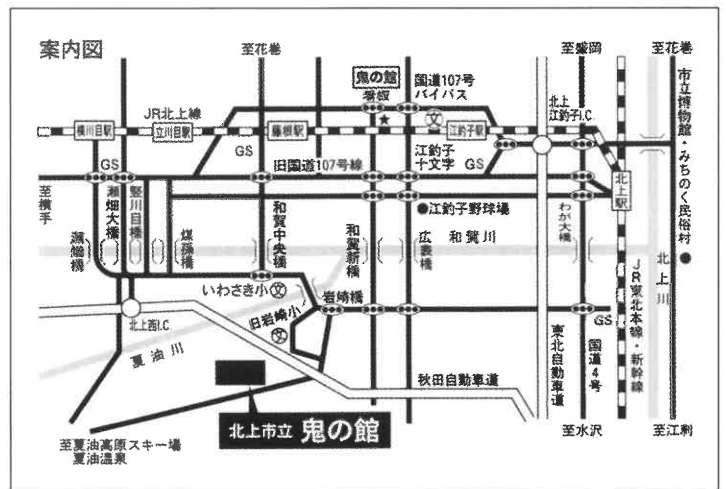
入館料

一般	500円(400円)
高校生	240円(180円)
小中学生	170円(120円)

()内は20人以上の団体料金。

交通利用

- ・JR北上駅西口よりバスで25分。煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。
- ・JR北上駅より車で20分。
- ・東北自動車道「北上江釣子 I.C.」秋田自動車道「北上西 I.C.」よりともに車で15分。



学芸ルームのかたすみで・・・

現在開催中の企画展「鬼と大蛇と狐と蜘蛛と～岩手の昔話から」。似たような昔話は各地に伝わっているでしょうが、物語の光景を表現する擬態語は、地域によって全然違うものもあるんだなあと驚きました。「つんぷかんぷ」は初めて聞きました。つんぷかんぷ、つんぷかんぷ。なぜか2回つづやいてみたくなる不思議な響きの言葉ですね。(明)

北上市立鬼の館だより

第43号 2015.10.2

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16 地割131 番地

TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508